



農業が宇宙と繋がる。  
その発想が、地球を救う。

日本、名もなき農地。宙の門蓋を埋め  
尽くし、賑やかな響きを繰り返して  
いた星々が、漸く寝入りとうとする薄明  
の時。そこに、聞こえぬほどの運転  
音で、無人の機械が、耕作地を滑  
るように進んでいく。まるで黒間を  
進む宇宙船と見紛うその姿こそが、  
地球規模の農業の将来を救う可能性  
を秘めた、クボタのアグリロボットトラクタ  
の、未来的なその姿である。

「スマート農業が、日本の―世界の―  
農業の未来を救う」と期待されてい  
る中、その期待を具現化すること  
のできる。希望の証。を創ることは  
できないものなのか。

クボタは、そんな「高い壁」に、真っ向  
挑戦しています。

GPSを利用した、無人の自動運転  
作業による「超省力化」、無人下でも  
障害物や異常姿勢を検知し、自動停止  
するなどの「高度な安全性」。そして、  
アグリロボットトラクタを始めとした、  
クボタのファームバイロッドシリーズ  
は、トラクタ・コンバイン・田植機を  
フルラインアップすることで、日本  
農業を、スマートで魅力的な先端産業  
へと進化させ続けているのです。

耐し込んだ一束の曙光が、この機械  
が、宇宙船ではなくトラクタである  
ことを教えてくれる。人を乗せず、  
遙か宇宙からの情報で正確な農作業  
をこなしていくその姿こそが、宇宙  
と農業を繋ぎ、地球規模の食糧事情  
の救世主となる存在であることに、  
気付くものはまだ少ない。

壁がある。  
だから、行く。